

新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）

第4回策定委員会

議事要旨

日 時：令和元年11月25日(月) 15:00～17:00

会 場：新潟市役所 本館3階 対策室

《出席委員（委員長、副委員長以下五十音順）》

委員長：五十嵐實委員、副委員長：菅原晃委員

阿部正喜委員、荒木剛委員、飯野由香利委員、石本貴之委員、小沢謙一委員、唐橋浩輔委員、品田泰委員、白井隆委員、高橋嘉津夫委員、中村辰男委員、吉川夏樹委員、和田徹委員

《事務局》長浜裕子環境部長、加藤正樹環境政策課長、若林靖恵地球温暖化対策室長、

小林由加子地球温暖化対策室主幹

【次第】

1. 開会
2. ワークショップの実施結果について（報告）
3. 新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）案について
4. その他
5. 閉会

【議事概要】

1. 開会

- ・阿部委員よりバイオマスプラスチックでできたSDGsバッジの紹介が行われた。
(株)バイオマスレジン南魚沼が開発した、非食米や碎米など食べられなくなったお米50%、プラ50%で創られている。バイオマスプラスチックを使ったおもちゃなども作っている。
ご参考としていただきたい。

2. ワークショップの実施結果について（報告）

- ・新潟NPO協会 代表理事 石本 貴之 様
- ・本計画の改定にあたり、3回にわたって開催されたワークショップの報告がなされた。

（質疑応答）

委員長：今後に関わる活動などの兆しが見えたら教えていただきたい。

石本委員：今回はアクションを生み出すことをテーマに設定しなかった。環境政策課だけではなく、他の部署と連携することで描いた未来をどう実現していくか、他の部署や他の団体と話をしていくためのきっかけづくりとなれば良いと思われた。

飯野委員：第1回に参加させていただいた。参加されている方にとっての未来をみつめる機会になったと思う。自分や住まいのライフスタイルを見直すということがみられ、それが第一歩として必要かと思われた。

委員長：自分事にするきっかけづくりということで、今後もワークショップを定期的を開いてもらいたい。次のアクションプランに繋がる形になるといい。

3. 新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）案について

①小林主幹より資料3（前半部分：1章～4章）についての説明が行われた。

- ・計画書の名称について。環境モデル都市について、これまでのアクションを更に推進していくと考え、アクションプランを推進プランと変更させていただいた。
- ・市内の事業者の取組事例を追加していく予定であり、原稿を依頼しているところである。
- ・指標については、12月1週を目途に文章で皆様方にご提示させていただく。

(質疑応答)

吉川委員：23ページの信濃川流量の予測について。グラフを提供したが、このままだと分かりづらいかもしれない。4月～6月、12月～3月の特に流量が減るところにハッチをかける等すると、グラフだけで情報が伝わり、わかりやすくなると思う。また、その他のページについても、図表をより見やすくした方がいいかと思う。

小林主幹：修正したものについては、吉川先生にもう一度確認をいただきたい。

中村委員：前回の委員会後、気候に関する箇所について記述変更依頼し、修正してもらった。その後、もう2つほど修正してもらいたいと思っている。19ページの1番上の図の出典については、新潟気象台から気候変化レポートに。20ページの下の方の図の出典は新潟気象台に変更してもらいたい。

五十嵐委員長：図など修正を加えて、市民がみて見やすくなるよう工夫してもらいたいと思う。

唐橋委員：22、23ページの図などは大きくし、わかりやすくしてもらいたい。

中村委員：25ページの表中の表記について。高波の波高と周期増加という表現がわかりづらい。

吉川委員：再現期間の話で、高波の頻度が高まっているという意味かと思う。

中村委員：波高の増加と発生頻度の増加など、もう少し表現を変えてもいいと思う。

小沢委員：40ページの低炭素型交通の転換のモビリティの表記や、41ページのシェアリングソサエティとシェアリングエコノミーなど。言葉をわかりやすくした方がいいと思う。シェアリングソサエティは造語になるのでは。

吉川委員：42ページの主なコベネフィットについて。不動産価値は向上ではなく上昇かと思う。

飯野委員：25ページ。気温の上昇による超過死亡の増加。こちらの意味もわかりづらい。

小林主幹：予測されるよりも多いという言葉なので、表現の方を見直ししていきたい。

五十嵐委員：温室効果ガスについて。水田はメタンを排出しているが、そのあたりは計画に盛り込まれているのか。

小林主幹：メタンの数値は把握しているものの、二酸化炭素に比べ排出量がたいへん少ないことから、今回の施策には反映させていない。

②小林主幹より資料3（後半部分：5章～6章）についての説明が行われた。

(質疑応答)

五十嵐委員長：協働プロジェクトは重要かと思う。

小沢委員：プロジェクト2について。2段落目の相談窓口の設置と、イメージ図の省エネ相談機関は同じものなのか。取り組みのステップのステップ1で省エネ相談機関の準備を行うとあるが、これからそれを創るのか。

小林主幹：経済産業省の支援を受けて省エネ診断を実施している事業者（一般社団法人環境省エネ推進研究所）が市内にあり、そちらにお願いすることを想定している。

小沢委員：その事業者を派遣して、診断など実施していくということでもいいのか。

小林主幹：その通りである。

石本委員：プロジェクト2は、どちらかというソフト支援をイメージしているのか。図の中に設備のことも入っているが、省エネを進めるのであれば金融機関との連携をしておかないと設備導入がままならないところもあるのではないか。

小林主幹：省エネ診断の次のステップとして、国の補助金制度等についてアドバイスをいただくことがまずひとつ。そしてお金を借りる際の優遇制度なども検討し、つなげていければと思う。

小沢委員：経済産業省では施設設備の補助金を事業者に出す際、省エネ等の要件を設定している。

五十嵐委員：制度的なものがないと協働プロジェクトは進まないと思うので、重要かと思う。

白井委員：プロジェクト1について。地域新電力など電気事業関係に精通していないと、わかりづらいのではないかと思う。かなりブレイクダウンした資料にしないと市民の皆様にはわかりづらいのではないか。

五十嵐委員：電力関係は専門的な部分もあるかと思う。法律的な部分を含めて、理解できるようにしていただきたい。

阿部委員：策定委員会とこれからスタートするプロジェクトとの関係について。せっかくこの機会に集まったのでこの会を継続していくのか、まったく新しい人達でやっていくのか。

加藤課長：策定委員会の皆様については、このまま何かの形でご協力いただきたいと思います。プロジェクトを実際に動かしながら、どこでご協力いただけるかを考えていきたい。行政だけでは課題解決はできないため事業者の方々の協力は不可欠。また、志民委員会、新潟ニュービジネス協議会の皆様など、個別にご相談させていただきたいと思っている。

荒木委員：プロジェクト3について。ESD環境学習モデル校のESDとはなにか。また、がたっ子プロジェクトとは、何をやるのかイメージしづらい。

小林主幹：ESDとは「持続可能な開発のための教育」の英語略称であり、モデル校とは数年来私どもで既に実施している事業である。この事業を拡大し、温暖化対策へつなげていきたいと考えている。その辺りを含めて、計画書内でも説明をしていきたいと思う。

吉川委員：プロジェクトの1～3まで、具体的に何をやるのかがよくわからない。脱炭素ビジネスも具体的にはどういうものか。こういったところに、こういった支援をしますよという具体的な事例が出てこないとみえてこない。

五十嵐委員長：専門用語等を含めて、内容がわかりやすくなるように修正をしてもらいたい。

高橋委員：プロジェクト3のCOOL CHOICE。非常にいい取り組みだと思う。子どもの

うちから環境学習の機会を設けることは大事かと思う。北陸ガスでも、以前から環境の取り組みとして、出前授業のエコクッキング*を実施している。エネルギーだけでなく食材も大事に使いましょうというもの。また、市内の小中学校にも職場体験ということで来ていただいている。これらを取り込んだ形でプロジェクトを作った方がより動きやすいと思う。来年から改訂された学習指導要領が全面実施になり、小学4年生からライフラインが自分たちの生活にどういう形で結びついているかを学ぶことになった。単純に環境一辺倒ではなく、このような学習機会も利用すれば、プロジェクトが進んでいくのではないか。全校一律ではなく、モデル校方式というのもいいと思う。

小林主幹：今年度グリーンカーテンの普及に関連した、料理教室に北陸ガス様からも協力いただいたところである。今あるものを活かしながら、環境教育を進めていくことが大事だと思うので、皆様からご協力いただければと思う。

五十嵐委員長：縦串の環境だけでなく、全庁的に横串の部分でも考えて進めてもらいたい。

飯野委員：協働プロジェクト全体の話。プロジェクトを通した将来像が明確に書かれてから、各プロジェクトの説明があると分かりやすいのではないかな。

五十嵐委員長：確かにバックキャストの形にしていくとわかりやすいかもしれない。

小林主幹：将来像を含め、目的をはっきりさせるような記述に変更したいと思う。

唐橋委員：プロジェクト2について。省エネ診断したうえで、補助等優遇するというのもあると思うし、省エネ診断を受けるものも費用がかかるということもある。そのあたりも説明があるともっとわかりやすいかと思う。

和田委員：プロジェクト3について。学校関係というところでは、できれば学生に公共交通機関を使っていたきたいということで、学校でバスの乗り方教室など実施しているが、意外にも郊外の学校の実施が多く、せっかく多くバスが走っている地域の学校へは、なかなか機会がない状況である。夏休みなどは、こども50円で乗れるようにしている。人口が減る中で若年層に公共交通を使うという意識を高めていってほしい。高校生になると通学などでバスに乗るが、中学生の利用が今少ない状況。急に大人料金になることもある。鉄道関連を調べたところ、JRは中学の通学定期があるが、私鉄はないようである。バスについて、急に子供から大人料金に上がるところを段階的にできるようにするなど検討している。中学生にも公共交通利用の啓発などができればと思っている。

品田委員：プロジェクト3について。弊社でもキッズプロジェクトを行っており、連携しやすいと考えているので、ぜひ何かしら連携していければと思う。

菅原委員：第6章にある地球温暖化対策地域推進協議会の会長をしており11年目になる。昨年度で協議会は約60ほどの事業者や推進員が参加している。環境フェアを万代シテイで大規模に開催していたが、30回目の節目をもって、平成30年度からは、地域で開催する形とし、多くの方から来場いただいている。環境フェアでは、エコドライブシミュレーターを使い、このような運転をするとCO₂削減に繋がるということが体験できるブースを出していた。新潟大学でも協力できればいいと思い、去年の春、今年の学園祭などでエコドライブシミュレーターの体験会などを実施したところである。

石本委員：52ページ。ESGsはESGではないかと思う。また、協働プロジェクトにつちえは、指標の最終的な数値の設定は行うのか。

五十嵐委員：プロジェクトのそれぞれのアウトカムをたてるかどうかという話かと思う。事務

局いかがか。

小林主幹：68ページに記載しているが、それぞれのプロジェクトに関連する施策を記載させていただいた。それぞれの関連する施策の指標を目指して行っていく方向である。目的等については記載していきたい。

石本委員：中間アウトカムも盛り込めるのであれば盛り込んでもらえればと思う。

4. その他

- ・委員会最終回のため、各委員より今後の行動計画を発表いただいた。

五十嵐委員長：最近グリーンピースと一緒にいる機会があった。学校でもSDGsの授業などを更に進めていきたい。個人的には週一でバスを使おうと思っている。自宅の太陽光パネルは20年過ぎたので、そろそろ蓄電池に変える、2年以内に電気自動車に変えるなどを実施していきたい。

品田委員：環境に対して何かやりたいと思っているけど踏み出せない事業者や、他の事業者の方と一緒にやりたいが、なかなかマッチングできないというところに対し、これからも協力していきたい。

白井委員：計画書はよくまとまっている。地球温暖化は冬暖かくなっていいよねという雰囲気新潟の中山間地などであったが、台風19号がきて、改めてきちんとやっていく必要があると思った。これは長くやっていくべき取り組み。次世代の人たちに向けて注力していきたい。

高橋委員：国のエネルギー基本計画でも3E+S（エネルギーの安定供給、経済効率性、環境への適合、安全性）が謳われている。エネルギー業界においても環境性というのは避けて通れない。ガス業界はガス導管でお客さまとつながっているという点で、地域にとっても近いインフラの会社である。天然ガスは化石燃料の中でもCO₂排出量は低く、私どもの事業活動自体が市の環境活動に繋がっていると自覚し、お客様に対して発信していきたい。また、SDGsについては今後も勉強して、会社としても取り組んでいきたい。

中村委員：数年前、赴任先の仙台で東北の水産高校をまわり、地球温暖化の現状を説明し、そのために個人ができることとして省エネの取り組みを紹介していた。トイレの便座のふたは必ずしめるなど。また、地球温暖化とは地球全体を平均すると温暖化している状況であって、地域によっては気温が低くなっているというところもある。非常に極端な気候現象が増えているということも事実であり、このこともお伝えしておきたい。

吉川委員：新潟は水田が農業の主体となっており、大学において田んぼダムの研究を行っている。グリーンインフラという言葉がでてきたが、水田というものは国内でも最も大きな水害抑制機能をもつグリーンインフラだと思っている。メタンと一酸化二窒素なども水田から出ているが、むしろ水田を持続可能な形で維持していくのがこれからの課題。特に国内の自給率。農学部としては肉を除いて100%目指していきたい。私自身は生ごみは燃やすごみに出さず全部畑に返している。エミッションとしては長期間土の中にたまってしまふかもしれないが、頑張っていきたい。

和田委員：キーワードは低炭素化。バスはCO₂は排出するが、窒素酸化物は出さない。石原都知事の時代の排気ガス規制で導入されたアドブルーという装置を導入している。尿素

を噴射して、窒素と水に分解する触媒装置である。その当時から故障が多く、故障が怖いのでアイドルストップができない運転士もいる。それらの修理費などディーゼルを使っているとお金がかかってしまっており、今後、電気や水素などの車両が広がってほしいと考えている。

唐橋委員：今年は、イカが不漁で特に佐渡沖のイカが壊滅的であった。地球温暖化の影響がここにも出ていると聞いている。数値目標としてCO₂削減があるが、それを達成するだけでなく、取り組みを事業者や学校など市域全体に広げていければいいと思う。個人レベルでは、車の家庭内シェアリングをしようと思っている。

石本委員：長野を今月の初めに訪れた。台風19号で陥没した地域などが生々しく残っていた。三条市に住んでいるが、決壊をギリギリ免れた。NPO協会として、いろんな形で市民とSDGsと温暖化対策をどう伝えていくのか、対話していく機会をつくってほしいのかと思う。子ども達も学習を始めているし、私自身も高校や大学生にSDGsを伝えている。その子供達が社会に出たときに受け止められるよう、大人にも伝えていくのが重要と思っている。

飯野委員：本委員会がたくさん学ばせてもらった。資料も色々いただき、将来が楽しみである。その一方、いろんな分野の方が携わらないといけないと感じた。過去の人口増の社会と今後の人口減少に向かっていく社会。いかに将来を見据えてどう変化していくのか、取り組んでいくのかを考えていく必要がある。どういうビジョンがあって、どういう方向に進んでいくのかが重要で、導いていかなければならない。また、仕組みづくりが重要。これまで工学部でエネルギー関係に携わっていたが、現在、教育学部に移った。学校の先生は多忙でカリキュラムもいっぱいな状況である。領域横断型というものをやろうという方向が出てきている一方、ESDは今下火になってきている。チーム学校として、地域や事業者と一緒に教育していく動きもあるので、そちらも活用していくといいかと思う。

荒木委員：農業用施設の維持管理を行っている立場である。田園環境の保全が非常に重要な項目かと思う。水田は地球温暖化防止や多面的機能を持っている。新潟市の農業については、米の一本足から脱却し、園芸作物にも広げてきたが、水田については、圃場整備を進めていきたい。田んぼの区画整理を行い、エネルギーやコストの削減に努めていく。

阿部委員：CO₂を減らすには、自宅にいるのが一番と考えてしまう。自分は新潟市北区に住み、土日は農業をしている。先日村上市の荒川中学校の生徒がSDGsの勉強をするために来た。中学生でもできることはなんですか？と聞かれ、「水は大切に。電気は消しましょう。ごみは分別しましょう。食べ物は全部食べましょう」など伝えた。計画を絵にかいた餅にするのか、実践してやっていくのかという話。実質、やるのは市と私たち事業者かと思っている。商工会の方で会議体がある。新潟市モデルをやってみようという話をしている。新潟市が温暖化対策に取り組もうと決めたのなら、市役所だけでなく事業者も大学も三位一体で進めていければいいと思う。

菅原委員：その荒川中学校の出身である。新潟大は教職員含め15,000人と大規模。何かしら取り組みたいと考えている。新潟大はエコモビリティ推進運動の表彰を受けた。学生省エネチームが存在し、学内で色々活動している。新潟市の環境政策課と一緒にイベントができないかと話があり、環境ブースを立ち上げ、エコドライブのシミュレータ

一の体験ブースなどを文化祭等に出した。また、食育も大事だと思っている。ガスだけでなくオール電化でのエコクッキングもできればいいと思う。研究室の学生に分別を促しているがなかなかできない。がたっ子プロジェクトが学生の意識を変えるものになればと考えている。

五十嵐委員長：本日、色々とパートナーシップの話も出てきたので、その辺りも連携など図りながらできればいいと思う。

5. 閉会

(今後の予定)

- ・ 12月1週を目途に調整中を埋めた計画案をお送りする。
- ・ 議会報告後、12月下旬から1月下旬までパブリックコメントを予定。
- ・ 2月中旬頃、書面開催で策定委員会を予定。

長浜環境部長の挨拶をもって閉会。

以上